平成28年度 大阪府立大学 授業公開講座（後期）

番号	講 座 名	講 師	曜日	コマ	定員	開講日
1	公衆衛生学Ⅱ	星　英之	月	1	20	9月26日
2	中国古典語Ⅱ ★	大平　桂一	月	2	5	9月26日
3	西洋文化史	村田　京子	月	2	20	9月26日
4	中国の思想	大形　徹	月	4	5	9月26日
5	ゼミナール　言語と文学 （原文で楽しむフランス文学） ★	村田　京子	月	4	5	9月26日
6	文化と宗教 ★	秋庭　裕	火	3	5	9月27日
7	ドイツ語中級CⅡ（読解） ★	兼田　博	火	3	5	9月27日
8	ソーシャルワーク概論	東　優子	火	3	10	9月27日
9	科学と文化	斎藤　憲	水	1	10	10月5日
10	共生の思想（ジェンダーと社会思想 ）	浅井　美智子	水	3	5	10月5日
11	教育社会学	西田　芳正	金	1	10	9月30日
12	人間環境科学入門Ⅰ	牧岡　省吾	金	1	20	9月30日
13	陸域環境生態学	中山　祐一郎	金	2	10	9月30日
14	地域福祉論B	小野　達也	金	3	12	9月30日
15	エスニシティと文化2	萩原　弘子	金	3	30	9月30日

【1コマ】9:00～10:30　**【2コマ】**10:40～12:10　**【 3コマ】**12:55～14:25　**【4コマ】**14:35～16:05

会　場　大阪府立大学　中百舌鳥キャンパス　各教室

対　象　どなたでも（全期間を通じて受講できる方）　★は受講条件あり

10回以上受講された方には、修了証を交付（希望者のみ）

受講料　1講座　3,000円
（一旦お支払いいただいた受講料は返金いたしかねますのでご了承ください。）

申込方法　「ハガキ」又は「Eメール」に、①ご希望の講座名、②氏名（フリガナ）、③年齢、④郵便番号・住所、⑤電話番号、⑥このチラシの入手先、をご記入の上、9月5日（月）《必着》までに、下記宛先へお申込みください。

※申込者多数の場合は抽選にて受講者を決定します（結果については全員に通知いたします）
※お一人様2講座まで

申 込 先　〒599-8531 堺市中区学園町1－1
大阪府立大学　C5棟　地域連携室 「授業公開講座（後期）」係
e-mail: jkk28@ao.osakafu-u.ac.jp（半角英数）

問 合 先　TEL:072－254－9942（地域連携室）

◎ 講義概要については、中面をご覧ください

※お申込の際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成及び本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

公立大学法人 大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

大阪府立大学

授業公開講座

平成28年度 後期

平成28年 **9月26日**（月）～ 平成29年 **1月27日**（金）
各15回（予定）

この授業公開講座は、一部の授業科目を一般の皆様に公開し、
学生とともに授業を受けていただく講座です。

公立大学法人 大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

【講義概要】

講座番号 1:「公衆衛生学Ⅱ」（現代システム科学域）　星　英之　准教授

公衆衛生学Ⅱでは、疾病予防に関して，前期に学んだ公衆衛生学Ⅰを基礎にさらに詳細な知識について学びます。その中で，喫煙，飲酒，身体活動などの要因と疾病予防に関する詳細な知識，さらに保健・医療・福祉・介護に関する行政面の考え方を身に付けることを目標にしています。公衆衛生学Iと共に受講することを推薦しますが、公衆衛生学IIのみの受講も可能です。

講座番号 2:「中国古典語Ⅱ」（高等教育推進機構）　大平　桂一　教授

中国古典を講読しつつ中国古典語の読解能力の更なる向上をはかります。中国古典読解に必須であり、また現代中国に対する理解を深めるために役立つ中国文学史、文化史、学芸史に関する知識についても学びます。
　今年度は特に中国文学史における詩の歴史に注目し、歴代の作品を総まくりで読みます。詩経、楚辞、漢代の楽府、魏晋南北朝の詩、唐詩、宋詩、宋詞、明詩、清詩、現代詩を取り上げます。なお講読は中国語及び漢文訓読法をもちいて行います。大平が作成した「中国語発音マニュアル」を用いて中国語の発音の基礎を身につけて頂いた上で、原文を中国語で音読いたしましょう。そうすることによってベルクソンが主張するように、作者の思想やそれを書いた時の精神状態に肉迫できると考えています。

★（注） 過去に同講座を受講された方は、お申込みいただけません

講座番号 3:「西洋文化史」（現代システム科学域／地域保健学域 教育福祉学類）　村田　京子　教授

本講座では、現代の民主主義の原点とされるフランス革命とはどのようなものであったかを探っていきたいと思います。まず、アンシャン・レジーム（ルイ16世、マリー・アントワネットのロココ時代）および、革命を推進した啓蒙思想を概観した後に、バスチーユ襲撃に始まり、国王の処刑、ロベスピエールの恐怖政治や対外戦争に至り、ナポレオンの台頭で終わる混乱の革命時期を歴史的に辿ります。とりわけ、同時代の作家の文学作品（ヴォルテール『カンディード』など）やフランス革命を背景とする小説（アナトール・フランス『神々は渇く』、ユゴー『93年』、バルザック『ふくろう党』『シャベール大佐』など）を通して革命を検証していきたいと思います。

講座番号 4:「中国の思想」（ 高等教育推進機構 ）　大形　徹　教授

長い歴史をもつ中国では数多くの思想が生みだされ、日本人にも大きな影響を与えています。孔子や孟子の儒家、老子や荘子の道家、墨子の墨家、韓非子の法家などの思想はとても興味深いものです。同時に中国の人々が知らず知らずのうちに形成していった、いわば中国人全体の思想ともいえる死生観や魂魄概念(魂魄はどこにあるのか、魂の語源、肉体をぬけだす魂と髪型との関係、坐忘、体内に入りこむ悪霊、侵入する鬼霊、疾病観と魂、悪霊をはらう方法)などについても考察します。これらもまた日本人の生活や考え方に大きな影響を与えているのです。

講座番号 5:「ゼミナール 言語と文学(原文で楽しむフランス文学)」（ 高等教育推進機構 ）　村田　京子　教授

ジャック・ドゥミー監督の映画『シェルブールの雨傘』(カトリーヌ・ドヌーヴ主演)をフランス語テクストで読んでいきます。ミュージカル仕立ての平易なセリフは、明晰で美しい言葉から構成されており、会話の練習もでき、楽しみながら文法と会話の練習をしていきたいと思います。また、シャンソン教材も使って文法の復習をすると同時に、現在フランスではやっているシャンソンを紹介するなど、異文化理解を深めていきたいと思います。

【教科書】窪川英水『シェルブールの雨傘』白水社（教科書は大学生協で購入できます）

★（注）受講は、フランス語初級程度を修得した方に限ります

講座番号 6:「文化と宗教」（現代システム科学域）　秋庭　裕　教授

【目標】日本宗教の「救い」を考察します。21世紀、グローバリゼーションが刻々進展する時代にあって、私たちの文化伝統の屋台骨をなす宗教文化を見つめ直すことは必須不可欠です。それは「21世紀、東アジアの片隅で生きる私たちは、いかに幸福に、死ぬことができるかを、理論的に問う」ことでもあります。
【概要】・一神教と多神教　・宗教と呪術と科学　・民俗宗教と教団宗教　・新宗教／新新宗教／スピリチュアリティの興隆　・日本宗教の「革新」
　　・海を渡る日本宗教 ・21世紀における日本宗教の「可能性」

★（注） 平成27年度に同講座を受講された方は、お申込みいただけません

講座番号 7:「ドイツ語中級CⅡ(読解)」（ 高等教育推進機構 ）　兼田　博　教授

後期の授業は前期と同様、作曲家リヒャルト・ヴァーグナーの自伝を読みつなぎます。
この授業では担当者が訳を発表し、出席者全員でその内容を論じます。担当の順番と範囲はあらかじめ指定します。このドイツ語はけっしてやさしくはありませんが、ドイツ語の辞書と文法書を参照しながらゆっくり進んでいきます。受講者にはあらかじめ担当範囲を指定しますので、自分の順番が来たらドイツ語を読んで日本語に直してください。担当でない人も辞書を使ってできるだけ予習して授業にのぞんでください。
後期からの受講はできませんので、ご注意ください。

★（注）過去に同講座の前期を受講された方のみ申込可能です

講座番号 8:「ソーシャルワーク概論」（地域保健学域 教育福祉学類）　東　優子　教授

社会福祉援助技術の入門科目として位置づけられる本講義では、地域でさまざまな相談援助活動に取り組むゲストスピーカーによるリレー・トークに耳を傾け、以下についての理解を深めることを目的とします。①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について、② 精神保健福祉士の役割と意義について、③ 相談援助の概念と範囲について、④ 相談援助の理念について、⑤ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について、⑥ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について、⑦ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について。また、他者・相談援助に取り組む基本として、学生が自分自身（および価値観）と向き合うことを目的とするため、基本は講義形式ですが、部分的にグループ・ディスカッションを実施します。

講座番号 9:「科学と文化」（高等教育推進機構 ）　斎藤　憲　教授

16世紀から17世紀の近代自然科学の成立の中で，とくに天文学に焦点をあてて，地球中心説（天動説）から太陽中心説（地動説）への転換を検討します。
古代の宇宙論を概観したあと、地球中心説に基づく天文体系を集大成したプトレマイオスの『アルマゲスト』を検討し、実際に太陽や惑星の位置決定のための計算の詳細を見ていきます。
近代の太陽中心説は1543年に刊行されたコペルニクスの『天球回転論』に始まりますが、これも実はプトレマイオスと同様の計算技術に基づく著作です。こちらも通常読まれることのない第2巻以降の計算の細部を検討し、しばしば「革命的」と言われるコペルニクスの理論が、プトレマイオスの計算技法の上に展開していることを確認します。
最後に、コペルニクス説がどの点において天文学者に評価されて、発展していったかを概観します。

講座番号 10:「共生の思想（ジェンダーと社会思想）」（現代システム科学域）　浅井 美智子　教授

現在の私たちの社会を構成している理念は、およそ西欧における市民革命を通じて形成されたものです。それは、自由・平等・ヒューマニズムなどを基本にしています。しかし、これらの理念を提起した思想の多くは、実は女性を念頭に置いていません。
この講義では、近代社会の理念を提示した主要な社会思想を紹介するとともに、これらの思想をジェンダーというフレイムからみたら、どう解釈されるのかを明らかにしていきます。この社会思想のジェンダー解釈を通して、現代社会において、私たちが自明と考えていることが、他の文化圏では自明でないということについて考察します。

講座番号 11:「教育社会学」（地域保健学域 教育福祉学類）　西田 芳正　教授

社会の新しいメンバーに必要とされる資質を身につけさせる営みと、その組織的な働きかけである学校教育の姿、それらを経験しつつ大人への途をたどる子ども・若者の姿は、社会の変化とともに大きく変動し、さまざまな問題状況を生み出しています。
　授業の前半では、社会化についての基本事項を確認し、学校が登場する以前の伝統社会における社会化（子育て）の仕組みとその特徴を整理します。その知見を参照枠としつつ、現代社会における家族・地域社会における子どもの成長とその問題性を検討し、授業後半では学校教育に視点を移します。その際、近年注目を集めつつある格差・貧困・社会的排除と学校教育の関連に焦点を当て、不利な環境のなかで生育する子ども・若者が経験する学校における排除のメカニズムを検討します。併せて、排除に抗する学校・教師の事例を紹介し、排除型社会としての性格を強めつつある今日の日本において求められる学校教育の在り方について考えていきます。

講座番号 12:「人間環境科学入門Ⅰ」（現代システム科学域 ）　牧岡　省吾　教授

発達、学習、記憶、視覚、聴覚、思考、推論、言語など、心の様々な側面について基本的な仕組みを解説します。主として心理学において研究されてきた事柄を扱いますが、必要に応じて動物行動学、分子生物学、神経科学、言語学など、他の分野の知見も取り入れながら解説します。 受講にあたって心理学に関する予備知識はとくに必要はありませんが、毎回の授業の前に、下記の教科書の指定部分を読んでおいてください（授業の最後に読むべき部分を指定します）。授業中に簡単な実験を行う場合もあります。

【教科書】鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編) 心理学[第5版] 東京大学出版会

講座番号 13:「陸域環境生態学」（ 現代システム科学域 ）　中山　祐一郎　准教授

人間の生存にとって不可欠な生態系サービスの理解、健全な生態系の維持と生物多様性の保全を実現するために必要な科学的知識の習得ならびに価値観の養成を目標にしています。
この科目では、生物の生活と環境との関係が理解できるように、生態系の構造と機能、生物の環境形成作用、生物種の環境に対する適応、個体群動態と種間の相互作用、生物群集の構造と多種共存機構について講義します。さらに、陸域と淡水域の様々な生態系について、その成り立ちと現状を具体的な事例をもとに説明し、生態系リスクの評価と管理の基礎を習得できるようにします。
具体的には、以下の項目について講義する予定です：生態系と生態学の構造、生態系における種の機能、生活史の適応進化、生理生態的特性の適応戦略、動物の行動と社会、個体間相互作用と個体群の動態、生物群集と生物間相互作用、遺伝的多様性とメタ個体群；森林の生態系、草原・湿地の生態系、高山の生態系、河川・湖沼の生態系、農耕地の生態系、都市の生態系、生態系リスクと持続可能性。

講座番号 14:「地域福祉論B」（地域保健学域 教育福祉学類）　小野　達也　教授

地域福祉論Bでは、地域福祉の実践の担い手やその進め方について学びます。地域福祉の推進には、さまざまな主体が関わり、多様な活動・事業が展開されています。地域での動きをどのように整理し、理解し、支援することができるのかを考察します。具体的には、行政や社会福祉協議会、NPO、住民などの実践主体を取り上げていきます。また、地域福祉では、公私関係や組織化活動ということが重要であり、かつ、近年では地域での個人支援も進められています。こうした地域での援助活動についても学ぶほかに、そうした活動を支える仕組みについても検討します。地域での実践に関心のある人の参加をお待ちしています。

講座番号 15:「エスニシティと文化2」（人間社会学部）　萩原　弘子　教授

アフリカ大陸の人々を奴隷として「新世界」へ運んだ大西洋奴隷貿易が廃止されてから2世紀を越える時が経過しました。奴隷貿易、奴隷制度といえば過去のことと思いがちですが、現代には現代の奴隷制があります。奴隷労働廃止は今もまだ課題です。では、2世紀前の廃止とは何だったのでしょうか。また、奴隷制そのものの廃止が、貿易の廃止から数十年も待たなければ実現しなかったのは、何故でしょうか。近代奴隷制について問うべき問いは、ほかにも数多くあります。近代奴隷制は、それまでの奴隷制と何が違っていたのでしょうか。なぜアフリカ人が奴隷とされたのでしょうか。本講義では、近代になって「黒人」と色の名前で呼ばれるようになった人々の歴史経験である人種奴隷制に焦点をあてて、「人種」という思想の形成を論じます。そのなかで、いくつもの問いの答えを出していきます。